

## 1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる</li> <li>・あたりまえのことを大切にできる学校⇒返事、学習規律、ルールとマナー</li> <li>・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚</li> <li>・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい子⇒生命の大切さを知り、他を思いやり自分を律する強い心をもつ子</li> <li>・考える子⇒基礎・基本を身に付け、自ら考え活用力を身に付ける子</li> <li>・元気な子⇒進んで心身を鍛え、健康で安全な生活を送る子</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師</li> <li>・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師</li> <li>・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師</li> <li>・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】学力向上アクションプランを見直し、全教員で取組んできたが学年末の目標を達成することができなかった。相手や目的に合った文章で表現することが苦手なところがあり、適切な言葉を遣って気持ちや考えを伝えることに課題がある。児童一人一人の学力向上に向けて分析と対策を常に行い、対話を多く取り入れた学習とアクションプランの実践を通して児童の表現力を高めていく。

○【「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】言葉遣いに関する活動に取組み、やさしい子プロジェクトチームが活動を提案するなど児童の意識が高まり、保護者評価でも高評価を受けた。相手を思って発言する意識と人権意識や言葉についての感性を高める指導を続けていく。

○【児童一人一人の体力の向上】重点的な取組みとして、従来行っていた行事に加えて投力向上に向けての活動を取り入れた。運動に制限があった一年であったが、外部講師による講演・指導を受け、楽しみながら休み時間も積極的に活動する児童が見られるようになった。体育の学習においても「考える体育」が多く実践されるようになり、児童は友達と見合い、話し合いながら自分の体力の高まりを振り返り、次の目標をもてるようになってきた。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○

3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○
---	-------------	---	---	---	---	---

## 5 令和3年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着	4月 80% 年度末 80%			

### B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	指導方法の改善 学力ポートフォリオの活用	算数 国語	研修 7月 12月 2月	○担任・専科・管理職  区調査、単元テスト結果から児童のつまずきを知り、つまずきを出さない指導の検討・実践を通して指導方法を改善する。	学習到達度診断  実施ごとに結果を報告	単元ごとに定着率 85%以上			
2 改善	つまずき補習 学力ポートフォリオの活用	国語 算数	すっきりタイム 金曜日 年 30回 123年生 5校時 456年生 6校時	○担任・専科・管理職  ①4月の区調査結果から未定着な学習内容を補習する。(前学年のつまずき) ②単元末の到達度診断結果から未定着な学習内容を補習する。(現行学年のつまずき)	学習到達度診断  実施ごとに結果を報告	①10月までに通過率 90%以上(区調査前学年) ②1月までに通過率 80%以上(区調査現学年)			

3 改善	学校図書館 の活用	国語	年間。 朝読書  週1回の 利用	○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年2回実施。  ②調べ学習で平均週1回の 割合で年間を通して図書館 を利用。利用記録で表彰。	読書記録カー ドに記録  教員の申告	①月2冊 年24冊読書  ②年30回利用			
4 改善	I C T機器 の活用	全教科	①週3回 以上  ②月1回 以上 ③半 期 に1回以 上	○教員 ①タブレット端末や大型提 示装置を使用した授業を実 施。 ②児童に児童用タブレット 端末を用いた授業を実施。 ③プログラミング教育の実 施。	週の学習計画  教員の申告	・実施した教員 の割合各80%			

<b>重点的な取組事項－2</b>		「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
友達に対して、いつでも優しい言葉かけ ができる。		学校評価 80%以上			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
心の教育を充実させる	・各々の違いが分かり、 認め、生かしていける態 度が身に付く	・道徳教育での指導の充実を図 る。 ・いじめ防止対策の一環とし て、道徳授業において、「思 いやり・親切」「人権尊重」 を取り上げる。 ・縦割り班活動での遊びを充実 させる ・オリパラ教育を通して国際理 解、障がい者理解を深める。			

挨拶・言葉遣いの意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで挨拶ができる</li> <li>・場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる</li> <li>・敬称をつけて名前を呼ぶことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる</li> <li>・児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる</li> </ul>			
特別活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価で肯定的に評価できる</li> <li>・努力している自分を認めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める</li> <li>・めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる</li> </ul>			

<b>重点的な取組事項－3</b>		児童一人一人の体力の向上			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
すすんで運動しようとする態度を育てる		令和4年度の体力状況調査結果で全国の平均を上回る種目を8種目中5種目にする			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
体育授業の充実	体力状況調査結果で全国の平均を上回る種目を1種目増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫する指導を行う</li> </ul>			

体力向上のための行事の充実	休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して運動が継続できるように体育的行事の内容や方法を改善する</li> <li>縄跳び（短縄・長縄）</li> </ul>			
運動に向かう環境づくり	運動する場に参加する児童数を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に運動することの楽しさを感じられる運動する場を設定する。</li> <li>学級あそび</li> <li>サーキットトレーニング</li> </ul>			

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）